

神奈川大学21世紀COEプログラム
「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究成果報告書

Report on the Results of “Systematization of Nonwritten Cultural Materials
for the Study of Human Societies” Kanagawa University 21st Century COE Program

高度専門職学芸員の養成

——大学院における養成プログラムの提言——

Postgraduate Curriculum for Specialized Training of Curator

神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議

The Kanagawa University 21st Century COE Program Center

まえがき

近年、博物館は、個別展示資料を並べて示せばよしとされてきた時代は終わりを告げたといえます。展示する資料の関連性を重視し、展示にストーリー性を示すことが求められるようになったからです。学芸員は、その展示を行うために、最初の資料調査から最終的な展示図録の執筆まで、その間さまざまな業務を担うことになります。

その展示の多様な業務の中で、もっとも重要な業務は展示計画や展示開設につながる資料調査と研究ということになるでしょう。博物館の展示がより充実し、内容が高度になっていくにしたがって、調査と研究もまた高度な内容が要求されるようになってきます。そのため、博物館の学芸員は、高度な専門知識や技能、さらには、すぐれた研究能力を備える必要があります。ところが、従来の大学における学部の学芸員課程でそのような能力を身につけることは不可能に近く、大学院レベルでの高度専門職学芸員の養成が早急の課題となってきます。

そうした社会的要請に応じて、1990年代あたりから、大学院に博物館関係の科目を開設し、専門性をもった学芸員の養成に取り組む大学もあらわれています。しかし、学問分野の専門性を追求はしても、博物館および博物館学芸員についての専門性を求めようとする大学院は少なく、また、高度専門職学芸員を養成するための理論的体系をもった博物館学を構築しようとする大学院もほとんど見受けられません。ここに、高度専門職学芸員養成のプログラムの構築が不可欠な問題として浮かび上がってきます。

21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」では、膨大な非文字資料の中から、図像、身体技法、環境・景観を選んで研究の対象としています。こうした非文字資料を取り扱ってきたのは、主に博物館などの学芸員です。そのため、本プログラムの研究課題にも、これまで経験に頼って調査研究に従事していた学芸員に対して、非文字資料に関する理論や方法を体系的に学ぶ学芸員の育成を掲げています。その方策として、COEプログラム最終年度の5年後には、大学院に学芸員課程を開設するという制度を創って示すことを構想しました。

ところが、それを遂行するには制度的な改変を余儀なくされるため、5年目に実現することは困難という結論に至りました。そこで、提言としてまとめることに軌道修正し、研究を重ねてきました。その成果が、本書『高度専門職学芸員の養成』です。副題にもあるように、大学院における養成プログラムを提示したものであり、内容的には、博物館学専攻プログラムと、歴史・民俗系大学院の養成プログラムの2類型を提言しています。また、内容をより理解していただくために、資料として、近年の各大学院における学芸員養成の現状と、2回にわたって開催した「学芸員の専門性をめぐって」と題する公開研究会の全記録を収載しました。

私たちが提言する内容が実現可能なものか確信はもてませんが、これから、大学院における高度専門職学芸員養成プログラムを構築しようと計画される場合、ここに提言した内容が一つの指標ともなれば幸いです。とはいえ、あくまでも試案であり、多くの方から忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

2008年2月20日

神奈川大学21世紀COEプログラム第5班

田上 繁